



流行が予測される感染症について

1 ヒトメタニューモウイルス感染症



まずはヒトメタニューモウイルス感染症について取り上げます。2001年と21世紀になって初めてオランダで発見されたウイルスなので、小児科以外の医療関係者はあまり知らないという方が大半ではと思われますが、実際にはあらゆる年齢層で上気道炎や下気道炎を起こし、特に小さい子どもたちや高齢者、免疫力が低下している人での気管支炎や下気道炎(肺炎、細気管支炎等)が目立ちます。RSウイルスと近縁のウイルスであり、症状も似ていると言われていますが、異なるのは発熱が目立つことであり、有熱期間は4~5日間と比較的長いです。まだ国内では公的なサーベイランスは行われておらず、詳細な情報はありますが、例年2~6月頃に流行するといわれています。既に迅速抗原検査が開発されていて、6歳未満の児では保険適応があるため小児科領域では身近な感染症となりつつありますが、一方で流行期間中には高齢者施設や障害者施設、精神科病棟等での集団感染や死亡例が度々検知・報告されるようになってきており、小児科以外でも注意すべき感染症であると認識されつつあります。

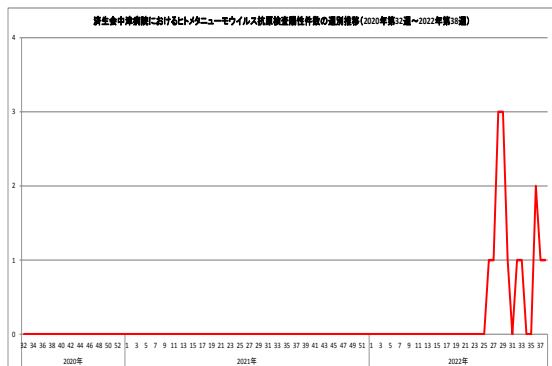


図. 当院におけるヒトメタニューモウイルス抗原検査陽性件数の週別推移(2020年第32週~2022年第38週)

今回ヒトメタニューモウイルス感染症を取り上げたのは、少なくとも大阪及びその周辺地域で流行中だと推定されるからです。図は2020年第32週以降の当院におけるヒトメタニューモウイルス抗原検査陽性件数の週別推移です、これまでほぼ2年間に渡って陽性例が検知されませんでした。2022年第26週(6月第4週)以降は多くの週で陽性例が検出されています。旭区にある大阪旭こども病院(<https://nakano-kodomo.or.jp/medical/labonews/hitometa.html>)からも、陽性件数が急増していると情報発信されていて、同様の報告は、他の小児科医療機関からも発信されています。2シーズンぶりの流行であり、高齢者や免疫力が低下した患者の診療、介護に携わる小児科以外の関係者の方々も、「ヒトメタニューモウイルス感染症」について認識しておいていただきたいと思います。

2 インフルエンザ

次にインフルエンザについて、国内では過去2シーズンに渡って全く流行がみられていませんでしたが、北米や欧州等の北半球の温帯地域では、ある程度インフルエンザの流行が冬期にみられていました。日本では流行のなかった2シーズンの間にインフルエンザに対する感受性者が蓄積しており、2022/2023年シーズンの冬期には2019/2020年シーズン以来の流行となる可能性が高く、また一旦流行した場合その規模は大きくなって不思議ではないと思われます。10月24~29日はインフルエンザワクチンの職員一斉接種が予定されていますので是非この期間中に接種を受けてください。

3 新型コロナウイルス感染症

最後に、新型コロナウイルス感染症の患者発生数の減少が続く、流行が落ち着きつつあります。これは予め予想されたことであり、過去2シーズンも新型コロナの患者発生が最も減少したのは10~11月でした。そしてこれも過去2シーズンと同様に、冬期には新型コロナの患者数は増加し、再流行が始まると予想されます。過去のシーズンと異なるのは、その場合インフルエンザとの同時流行となる可能性が高いということです。新型コロナの冬期の流行(第8波)に備えて、これからの2か月間に可能な限りの準備を行っておくことが肝要です。

感染管理室 安井良則

感染対策研修会のお知らせ

★第1回感染対策研修会

2022年10月11日開催 17:15~18:30 西棟13階 体育館
(10/31・11/1・11/2・11/4 DVD講習会開催)

「新型コロナウイルス感染症UpDate~感染対策・薬物治療から後遺症まで~」

★第2回感染対策研修会

2022年10月24日~10月29日
インフルエンザワクチン接種時に開催
5分程度のDVD講習会を予定

当研修は全職員対象の**必須研修**です。
未受講者は、後日インシデント報告システムより
動画視聴をお願いします。

感染管理室 川口尚子



HALLOWEEN

